

目標設定シート (2009年度)

部局と評価項目・要素

対象部局	統括部局：国際教育・協力センター	担当部局：国際教育・協力センター
大項目	7 国際交流	
中項目		
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。	
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性	
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性	
	(KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）	
小項目	7.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際理解のための教育	
	(KG2) 国際協力の実践	

○2009年度からの目標

1. 海外協定大学を2013年度末に150大学に拡大し、世界の多くの地域・国から交換留学生250人を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。
2. 海外からの推薦入試など入試制度を改革し、学部、大学院において2013年度末に定員の3%（713人）の外国人留学生を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。そのために、宿舍提供システム整備、ワンストップサービスの提供と奨学金制度を整備する。
3. 英語による授業のみで卒業・修了できるコースを学部、大学院にそれぞれ1コース以上設置し、世界に開かれた大学を実現する。
4. ダブルディグリー制度を2013年度末までに3学部、5大学院に拡充し、世界の大学との教育・研究連携強化を実現する。
5. 海外拠点を2013年度末までに3箇所以上設置し、海外との連携交流ネットワークを構築する。
6. 国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムを2012年度末までに構築し、国連および国際機関等の法人との連携強化を実現する。
7. 海外への学生派遣プログラムを拡充し、2013年度末までに900人の学生を派遣する。
8. 客員教授制度を改革し、2012年度から新制度による外国人教員の受入を2009年度比50%増とし、教育のグローバル化と国際間での共同研究を推進する。
9. 教員の国際化を推進し、2013年度には外国人教員比率を全体の12%以上とする。

○指標

1. 海外協定大学数および受入交換留学生。
2. 外国人留学生数、宿舍提供数、外国人留学生へのサービス部門の整備および奨学金制度改革の有無。
3. 英語による授業のみで卒業・修了できるコースを提供する学部、大学院数。
4. ダブルディグリー制度を有する学部、大学院数。
5. 海外拠点数。
6. 国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムの構築の有無。
7. 海外への派遣学生数。
8. 客員教授制度を改革の有無と客員教授受入数。
9. 外国人教員比率